

PROFILE

気仙沼市 建設部 都市計画課 都市施設係
まつした あずか
松下 飛鳥 さん
鹿兒島市より気仙沼市に派遣

the 応援職員

NOW IS.

気仙沼

Kesennuma



友人が来ると必ず連れて行くと言う安波山。ここからの眺望は、気仙沼を一望できるのでお気に入り。



歴代の鹿兒島市の派遣職員が担当してきた「朝日町赤岩港線」の様子。



多くの人に復興の状況を見に来てもらいたい

「鹿兒島市の派遣職員は今年度から自薦が可能となり、真っ先に応募しました」と話す松下さんは、2018年4月、鹿兒島市から気仙沼市に土木技師として派遣されてきました。昨年度、気仙沼市に派遣されていた職員と仲が良く、度々復興の状況を聞いていて、自分も役に立ちたいと思っていたそうです。「自薦とはいえ、経験豊富な職員が優先だろうと思っていましたし、女性の派遣職員はこれまでいませんでした。なので、内定をもらった時は驚きました」。うれしそうに話す松下さんの顔が引き締まります。「市から『お役に立ってきなさい』と言われ、復興事業全体の一部分ではありますが、自分の役割をしっかりと全うしたいと思っています」。

気仙沼市では都市計画課に所属し、朝日町赤岩港線という新しい道路と、南気仙沼復興市民広場の2つの現場を担当しています。「鹿兒島市では、一人に対応することが多かったのですが、ここではたくさんの人と関わるので、最初は戸惑いました」。鹿兒島市では道路維持課に所属し、桜島の灰をスローパー(路面清掃車)で回収する指示など、降灰対応がメインでした。「工事が発注できて、二陸沿岸道路の工事や防潮堤の工事なども同時に行われているので、関係機関と調整会議が必要で。本当に多くの人と関わり、そして支えていただながら業務をしています。特に朝日町赤岩港線は橋梁工事があり、土木の中でも橋梁は特に専門知識が必要なので、やりがいを感じています」。

「被災地の状況は、ここに来て見ることが大切だと思いました。復興の規模が実感できます。震災直後の状況から、ここまで復興してきたみなさんの意気込みを感じてもらいたいです。鹿兒島に戻っても、たくさんの人を引き連れて訪れたいです。また、鹿兒島市は雨がとても多い地域。桜島の火山もありますし、いつ、どこが被災地になるかわかりません。防災・減災に関しても、改めて考えていきたいですね」。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



ONE-LINE 気仙沼イルミネーション

震災で光を失った気仙沼市内湾地区を1本のイルミネーションで結びヒカリを灯す催し。7回目となる今回は、内湾地区の商業施設「ムカエル」のグランドオープンを記念し、12月8日の点灯式には有名アーティストによるライブや海上打ち上げ花火も開催されます。

- 日時: 12月8日(土)~1月14日(月) 18:00~22:00
- 場所: 気仙沼市内湾地区を中心に、田中前大通りなど市内各所
- ☎070-6486-3108 (ONE-LINE実行委員会事務局)
- ホームページ <http://kesenuma-christmas.com/>



気仙沼の幻想的な冬の光景「気嵐」 フォトジェニックな神秘的な景色

「気嵐」は、海面から湯気のような霧が立ち込める現象。寒い冬の朝に、ある一定の条件がそろって発生する気仙沼の冬の風物詩です。昇る朝日と大型漁船のシルエットが「気嵐」に浮かぶ姿は、思わず息をのむほどの幻想的な光景です。冬の気仙沼は、フォトジェニックな神秘的な景色とともに、牡蠣やメカジキなどのグルメも楽しめるので、ぜひ訪れてみてください。

今月のガイド

MONTHLY GUIDE

ジャズ喫茶 ヴァンガード マスター
いまかわ とみやま
今川 富保さん



島山美由紀さんが小さい頃から母に連れられて通っていたという、ジャズ喫茶ヴァンガードは、1967年創業。震災から4カ月後にはお店を再開しますが、一昨年にオーナーが、昨年にはマスターが亡くなり、店は存続の危機に瀕しました。

お店を引き継いだのは、今川さんと小松和雄さん。「再開当初はコーヒーとコーク、そしてマスターとの会話を楽しむに、『ヴァンガード』に行ってみてください」。

「島山美由紀さんが小さい頃から母に連れられて通っていたという、ジャズ喫茶ヴァンガードは、1967年創業。震災から4カ月後にはお店を再開しますが、一昨年にオーナーが、昨年にはマスターが亡くなり、店は存続の危機に瀕しました。

お店を引き継いだのは、今川さんと小松和雄さん。「再開当初はコーヒーとコーク、そしてマスターとの会話を楽しむに、『ヴァンガード』に行ってみてください」。